

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390300525		
法人名	(有)介護生活研究所		
事業所名	グループホームすずらん		
所在地	熊本県人吉市鬼木町1423-1		
自己評価作成日	平成26年3月5日	評価結果市町村受理日	平成26年4月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do">http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	平成26年3月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

信頼関係を「ゆっくりいっしょに」築いていきます。ご本人やご家族との信頼関係を築く事が大切で、その信頼関係の中で創りだされる「ゆっくりであること」「いっしょであること」を念頭に自立した生活ができるように介護支援を行なっていきたいと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

見慣れた山々や田畑の心落ち着く環境の中、一人ひとりのできること、できないことを見極め、能力を奪わない支援に日々取り組んでいる。入居者は裏庭の芝生や玄関先のスペースの椅子に腰掛け、お茶を飲んだり、畑の作物や樹木の成長を眺めながら穏やかな時間が支援されている。また、家族との信頼関係を一番に、管理者は可能な限り定期的に家族の元を訪れ、生の声で近況を伝えながら、思いや意向を察し、入居者と家族の関係がより一層密なものとなるよう情報交換を行っている。職員も気持ちに余裕を持って、本人と共に過ごし、家族と共に支えあう関係に努めている。代表者と管理者は志を一つに高齢者介護にあたっており、今後も思いを共有した職員と一緒に、入居者が地域の中で『ゆっくりいっしょに』日々を過ごせるホームとして運営を展開していくことに大いに期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念を伝え施設方針を共有しています。玄関にも掲示しご家族、外部者にも随時確認して頂けるようにしております。時間に追われる事なく生活を送り、外出、行事参加を行なっております。	『ゆっくり いっしょに』という、わかりやすい基本理念は、職員のケア姿勢としても活かされており、玄関先への掲示により、出勤時の職員の確認や家族・来訪者などに啓発されている。入職時には理念や方針について説明し、同じ志を持って業務にあたることを伝えている。また、推進会議の中でも説明を行い、ホームへの理解に繋げている。	今年度は「地域へ出かける」事を一つの目標に掲げ、理念の実践に取り組んでいる。新年度も理念や新たな目標を家族や推進会議などで共有される機会を持ち、サービスの向上に繋がっていくことに期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩など外出の機会を多く取り入れ、行事ごと等の参加、案内を行ない顔なじみの関係を目指している。	地域の一員として町内会や区費の納入を行い、春先や梅雨前の清掃活動にも職員が参加し親睦を図っている。歴史ある地元のおくち祭りをはじめ地区の夏祭りには外出を兼ねて出かけ、地域の人々との交流の機会としている。今年度は高校生の福祉体験受け入れや、管理者が認知症キャラバンメイトの講師を行うなど、地域貢献にも努めている。また、玄関先や眺めの良い裏庭を休憩所として活用して欲しい旨を伝えるなど、近隣・地域の身近な存在でありたいというホームの思いが窺われる。	年末に開催した『餅つき』に子ども会にも案内したところ8名の参加があり、帰り際に「来年もまた、餅つきしてね〜！」と語ってくれたようである。入居者の笑顔やホームに元気を与えてくれる子ども会との交流が、ますます盛んに行われれていくことに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方へ研修会のご案内を行なった。近所の高齢者の方の散歩の休憩所などに利用して頂けるよう声掛けを行なっている。	/	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご利用者、ご家族、町内会長、地区会長、民生委員、近隣住民、市役所から参加して頂き現状報告を行ない、意見を頂き、運営推進会議後、報告を行ない情報の共有を行っている。	二ヶ月に一度の開催は定着し、入居者の状況や活動、リスクマネジメント報告の後、意見交換という流れに沿って進行されている。参加者より夏場をはじめとした水分補給や健康管理に関する対応、職員研修内容などの質問に管理者より回答されている。今年度離脱事故の報告後には、参加者より指摘や助言を受け、対応の不備、職員の意識など問題点について、あらためて大切な命を預かる職務であることを考える機会となっている。	ホーム独自の記録用紙にまとめられているが、やや詳細さに欠けるようにも思われる。今後は管理者の他に記録係を設けることで、わかりやすい記録と共に職員の共有の機会に繋げていただきたい。また、市職員の参加も得られており、行政の立場としての意見や提案を受ける事で、更に有意義な会議になると思われる。取り組みに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議時、現状報告を行なっている。介護保険の更新時の書類申請など行けるご利用者の方は一緒に市役所に行くようにしている。	推進会議への参加が得られておりホームの現状はその都度報告されている。介護保険更新時には、「自分のことなので！」と、一緒に役所に出向く入居者もおられる。管理者は今後も行政と連携を図りながら、ホームにできる地域貢献や入居者のサービス向上に努めていきたいと語っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間以外は特に施錠は行なっておらず、徘徊などあれば必ず付き添い対応をおこなっている。	虐待も含め拘束に関するホーム内・外の研修への参加やミーティングの中での共有を図り、理念である『ゆっくり いっしょに』を常に意識してケアにあたる事が管理者より伝えられている。人員配置も職員の心身の余裕に関係してくることから、勤務体制についても無理のないよう配慮されている。玄関は夜間以外は施錠されておらず、職員間で入居者の安全確認に努め、不穏時には付き添いのもと散歩をしながら安心してもらうような取り組みを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設研修、外部研修に参加し、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会を行なっている。必要性を検討している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に説明を行ない、署名、捺印を頂いている。質問等あればその都度返答している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に連絡を行ない、現状報告を行なっている。問題があればすぐに対応を行なっている。家族会を開き参加出来るご家族には参加して頂いている。面会時など要望あればお伺いしている。	入居者は職員との普段の関わりの中で、外出や食べたいものなど要望を出されており、可能な限り希望に添えるようにしている。管理者は人吉圏内であればできるだけ自宅を訪問し、健康面を含めた日常の様子を伝えるなど信頼関係を築いている。また、遠方の家族へは月一回は電話や書面にて状況を報告し安心に繋げており、二～三ヶ月ごとに帰熊された際は一緒に過ごす時間を持たれている。今年度開催された家族会では10名程の参加が得られ、丑の日だったこともあり、うなぎ料理をはじめとした、心を込めた手作り料理で会食も楽しまれている。	入居時に説明されているホーム内の苦情・相談窓口と共に外部の窓口についても伝達が望まれる。また、本人・家族の意見や満足度を確認するためにも職員間で内容を検討したアンケートの実施にも期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回ミーティングを行ない話し合っている。不定期ではあるが個人面談を行なっている。	定期的なミーティングや個人面談の中で希望や提案等を確認し、希望休の取り入れ等働きやすい職場環境の整備に努めている。支援内容や共有方法など常に真摯な意見が出されており、職員は入居者の目線で検討を図っている。代表者は管理者と連携し、心身共に健康で力を発揮できる環境にも心を配っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	出来る限り希望を聞き入れ対応している。ストレスをためないよう働きやすいよう環境作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に研修会に参加し、希望の研修会などあれば申し込みを行なっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ブロック会の研修に参加し、意見交換を行なっている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	普段の会話の中で、利用者様が思っておられる事を理解し、安心して生活して頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	お話を聞き、出来る限り要望に対応出来るように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設だけの対応ではなく状況に応じて話し合いを行ない、個々にあったサービス提供が出来るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	いっしょに、ゆっくりと同じ時間を過ごしお話をよく聞きながら、安心して生活して頂けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	連絡調整を行ない、定期的出来る方は外出、外泊をして頂いている。定期的に状態報告を行ない、活動写真等郵送している。状態変化あればその都度、連絡を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご自宅に外出などし、近所の方との交流を行なっている。馴染みの関係を続けるよう努めている。	理髪はゆっくり寛げる時間でもあることから通い慣れた場所を継続して支援する他、色鉛筆画やギターなど趣味や特技を引き続き取り組める環境に努めている。外回りの掃き掃除を日課とされる方は、昨今、暖かくなり毎日朝食前に取り組まれ、ホームの一日のスタートに一役かかってもらっている。。また、缶コーヒーが好物な方が自販機での購入を楽しみにされていたが、医師からの指導を受け、職員で検討し、時には自販機購入も楽しめるよう日常はホームで手作りのコーヒーで対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が状況を把握し関係作りに努めている。少数での活動や、全体での活動、その時、その時に合わせた対応を行なっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在対象なく行っていない。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の生活を大切にしご本人様の生活をくずさないように努めている。活動参加等は声掛けを行ない、その日の状態で参加して頂いている。	一人ひとりのこれまでの人生を尊重し、その生活を崩さぬようホームで最良の支援に努めることを優先にしている。職員は基本理念に沿って、ゆっくり いっしょに語り合い、寄り添い思いや意向を把握し、管理者も可能な限り自宅を訪問したり、電話連絡などタイムリーな情報を得るようにし、プラン作成に繋げるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常生活の会話の中でも情報収集を行ないながら、変わらない生活ができるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	モニタリングを行ない必要な介助の検討を行ない、状態把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回状態報告を行ない見直しを行なっている、必要に応じその都度話し合いを行なっている。	入居者のできること、できなかなことを見極め、本人の能力を奪わないようなプラン作成を心掛けている。毎月のミーティングで入居者の状態を検討し、必要があればその都度、大きな変更がなければ半年ごとに見直しを行っている。家族への説明に関しては、丁寧な対応と、プランに限らず何かあれば遠慮なく申し出て欲しい事を伝えながら進め了承を得ている。家族の状況に応じた連携が日頃から図られている事が聞き取りや書面からも確認された。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	勤務交代時に申し送りを行なっている。状態はその都度カルテ、申し送りノートに記入し状態観察に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	話し合いを行ない、出来るだけ対応できるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事、イベントなど参加、見学し楽しみを見つけながら生活を送れるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設の協力病院以外でも入居前のかかりつけ医への受診を行なっている。	入居前からのかかりつけ医をそのまま支援しており、馴染みの医師による受診体制がとられている。定期受診には職員が付き添い、入居者の心身の状況を伝えながら医師から直接結果を聞くことで現状を共有し、ホーム生活に反映させている。内容はその都度家族に報告され安心してもらうよう努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は配置していないが、日常生活の中での気づきを大切に少しでも変化があれば、必要に応じ早目の受診を行なっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合、定期的に病院に訪問し状態報告を受けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設で出来る事、出来ない事の説明を行なっている。	入居者の体調変化や入院時など必要と思われる時点で終末期ケアについて家族と話し合う機会を持ち、ホームの方針を伝えている。医療行為の必要が無く延命を望まれない場合は、看取りまでの支援に応じることができるとしている。	今後はホームの方針を明文化した「指針」の作成により重度化や終末期に向けた方向性を確立し、理念に添いながら人の最終の場について、考える時間を持つことも必要と思われる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の普通救命救急講習を受講している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間2回の避難訓練を行なっている。地域との協力体制はとてれいない。	昨年四月の消防署指導による夜間想定 of 災害訓練と、十月には点検業者が参加して自主訓練が行われている。夜間想定 of 訓練後は消防署の総評として一人での対応の難しさや、まずは火を出さないことなどがあがっている。担当者が調理場の火元確認を行い、備蓄として多めに米を用意している。	夜間帯の火災を含む災害時の地域との連携は重要であり、推進会議などで議題の一つとして地域代表者と体制作りに向け協議し、訓練の事前告知や避難後の見守りに協力を依頼するなど第一歩を期待したい。また、日々の安全点検は火元に限らず、せっかく用意された書式に添い、コンセントや建物周辺などの安全チェックも期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方その方の人格を尊重し、失礼のないよう心掛けている。	離職の少ない職場環境は馴染みの職員による個々のペースに合わせたゆっくりとしたケアが実践されており、呼称は苗字や下の名前にさんを付けて対応し、入居者が安心される呼び方で統一している。入浴時の同性介助を基本とし、居室でのセンサーマット使用については家族の了承を得ている。	呼称については今一度家族に希望を確認したり、センサーマットの使用には定期的な説明が必要であると思われる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の話しかけで希望を聞き、出来るだけ希望を取り入れるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	いっしょに、ゆっくりと。慌ただしく時間が流れることはない。全利用者様の希望に添えての支援はできていない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	施設外に出られる時など声掛けを行なっている。施設に居られる時も同じ服にならないよう心掛けている。理美容も声掛け行ない整髪している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りや皿洗い、皿拭きなど出来る方には行なって頂いている。盛り付け等も注意している。	朝食は夜勤者が担当するが昼・夜は調理責任者による食事作りが行われ、職員が入居者に寄り添う時間を設けている。担当者は入居者の好みを聞き入れながら肉・魚料理を交互に取り入れ、三食ともに喉越しの良い汁物を付けるように工夫している。主食を混ぜご飯や代わりご飯、パンなどで変化を持たせ、差し入れ野菜を利用して季節感ある料理を提供している。入居者も野菜の下ごしらえや切干大根作りなどに腕をふるい、できることで食に関わっている。	エプロン使用については毎日必要かどうかを検討し、食事内容によってタオル等で対応できないか工夫を期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表にて評価している。水分量が少ない方には声掛け、補助として水分ゼリーなど提供して体調管理に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後口腔ケアの声掛けを行なっている。介助の必要な方は職員で毎食後介助を行なっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その方にあたりハビリパンツ、パットを使用している。時間毎に声掛け、誘導を行ない失禁の軽減に努めている。	個々の排泄間隔を見極め、声かけや誘導により日中はトイレを使った支援を基本としている。布下着やリハビリパンツに尿とりを組み合わせ、入居者の動きにも配慮して排泄用品を選択している。夜間帯にはテープ式の方の定期交換やポータブルトイレの使用、トイレ誘導など個別対応により不快感を減らし、安眠に繋がるような支援を心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便困難のある利用者様には個々に合わせた声掛け、内服管理、排便状態の観察を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	夜間での入浴は行っていない。日中に関しては声掛けを行ない利用者様の良い時に入っている。	入居者の希望に添いながら週三～四回の入浴を支援している。衣類の着脱が嫌で拒否をされる方もおられるが間隔を確認しながら声かけや誘い方を工夫し、清潔を保つよう対応方法を家族に説明している。浴室は掃除が行き届き、時には二人がかりで介助しながら全員の方が湯船に入ることができており、入浴を楽しんでもらうよう努力している。ゆずや菖蒲湯の他、カーネーションは事前にテーブルに飾ったあと利用するなど季節風呂を提供している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状態に応じて臥床して頂いている。昼間の臥床が長くないよう声掛けを行ない、夜間よく休めるよう心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服の一覧表を作成し、副作用の確認を行なっている。誤薬が無いよう服薬管理に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	施設だけの生活にならないよう、野外活動を充実させ趣味活動や散歩、ドライブなど気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候をみながら野外活動を行なっている。季節ごとの行事、お祭りなどに出掛けるように努めている。遠方に出掛ける場合はご家族に連絡を行ない出掛けるようにしている。	入居者の身体状況などを考慮し、本年度は桜見学も地元人吉と鹿児島との二ヶ所に別れて出かけている。また、水俣のバラ見学など人吉を離れる外出の際には家族に挨拶をして出かけるなど微笑ましい対応も心がけている。つつじ見学の折には手作り弁当を持って出かけたり、外に出ることがが難しい日でもリビングからの木々が癒しとなり、外出気分を味わっている。	管理者はこれからは家族へも声かけし、一緒に出かける機会を作りたいとしており、今後の取り組みが期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの方が持っておられる。受診時、生活用品は預かり金で賄っているが、買い物などに行かれた際はご自身でお支払いして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	面会の少ない方、電話出来る方には電話してお話して頂いている。年賀状は全利用者様書いて頂きご家族、親しい方に出して頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせカレンダー作りをして頂き毎月掲示している。飾り付けもその時折に合わせて行なっている。	台所と一体となったりリビングは調理の音や匂いが入居者に心地よい場所となっている。大型のカレンダー作りには全員が関わり、水彩画の作品が掲示された落ち着いた雰囲気であり、過度の飾りつけを控え過ごしやすい空間を作っている。掃き出し窓の先の緑が美しい裏庭や玄関周り、浴室やトイレなど共有部分の掃除を小まめに行い、入居者が気持ちよく使える環境作りに配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーや和室でゆっくり過ごして頂けるようにしている。日当たりも良くテラスでお話などされ過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前にご自宅で使用しておられた物等を持って来て頂くように声掛けを行なっている。各居室ご自由に使用しやすいよう配置している。	入居者に馴染みの椅子や飾り棚を居室に配置し、使い慣れた衣類や寝具の持ち込みにより安心して過ごしてもらうよう家族の協力を得ている。自宅に近い環境を整えることを重要視し、季節ごとの衣服の入れ替えにも家族が関わるなど一緒に居室環境に努めていきたいと語っている。食後居室に戻り休憩される方や、部屋の様子を確認したら安心してリビングに集われる方など、大切な場所となっている事が窺われた。	居室内に掲示されたカレンダーの確認や室内に置かれた排泄用品については、クロスをかけるなどのひと工夫に期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーになっているが居室から外に出る場合は段差がある。生活の一部としてあえて段差をのこしました。入居前にご家族にはご説明を行ない了承をえています。		